

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立矢田西小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	東住吉
学 校 名	大阪市立矢田西小学校
学 校 長 名	亀川 育寛

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立矢田西小学校では、第6学年 35名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立矢田西小学校の結果概要

今年度も国語科・算数科ともに、平均正答率は大阪市および全国平均を下回る結果となった。しかし無答率を見ると、国語科は大阪市・全国平均より高いものの、算数科では低く抑えられている。領域別の平均正答率では、全ての領域について大阪市・全国平均を下回る結果となった。しかし、国語科の「C 読むこと」、算数科の「D データの活用」においては昨年度よりも大阪市や全国平均との差を縮めることができた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】全国平均を15.9ポイント下回っており、「C 読むこと」以外の領域でも同程度の差が見られた。無回答率が高く、文章の内容を読み取って自身の考えを書く記述力に課題があることがわかる。正答数が5問以下の児童が4割強を占めており、全体的な底上げが必要となっている。

【算数】全国平均を12.4ポイント下回っているものの、昨年度より正答率は向上している。児童質問紙の「算数の勉強は好きですか」「算数の学習は将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という問いに対し、肯定的な回答が大阪市や全国平均を大きく上回っている。学習への意欲を持ち、その必要性を実感していることがうかがえる。

質問調査より

最も肯定的な回答では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」（61.8%）「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」（85.3%）が、大阪市や全国平均を大きく上回っており、思いやりや人権を尊重する心情が順調に育っていることがうかがえる。また、「将来の夢や目標を持っていますか」（82.4%）「学校に行くのは楽しいですか」（55.9%）でも平均を大きく上回り、夢や希望をもって登校する児童の割合の高さが示された。

「国語・算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答も、両教科ともに大阪市や全国平均を上回っている。しかし、家庭生活では「普段、学校の授業時間以外に全く勉強をしない」児童が23.5%、「1日4時間以上SNSや動画視聴などをする」児童が44.1%に達している。今後は学習した授業内容を定着させる時間や活動を、確保していくことが大切であると考えます。

今後の取組（アクションプラン）

本校では、「人格の形成」を学校教育の大きな目標の一つに掲げている。学力向上だけに特化することなく、子どもたち一人ひとりの豊かな心を育てる「バランス感覚」を大切にしながら、日々の教育活動を進めてきた。学力は1年で急激に伸びるものではなく、小学校6年間の長い期間を見据えた継続的な取り組みが必要である。これまでの地道な実践の成果が、今回の「児童質問調査」の結果にも良い傾向として表れている。今後も、これまで大切にしてきた以下の5つの柱を継続していきたいと考える。

- 授業の改善 : すべての子に確かな学力を身につけるため、日々の授業の質を高める。
- 心の育成 : 学力の基礎となる「挑む力（チャレンジ精神）」や「やりきる力（粘り強さ）」を育てる。
- 集団の育成 : 子どもたち同士が互いに学び合い、高め合える学級・学年をつくる。
- チームでの対応 : 学力状況をきめ細かく分析・共有し、全教職員がチーム一丸となって課題解決に取り組む。
- 家庭との連携 : 学校や家庭において、望ましい学習習慣の確立を目指す。